

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	認知症対応型共同生活介護 江別ケアパーク そよ風 グループホーム いしかり	評価実施年月日	平成21年1月21日
評価実施構成員氏名	・福澤 光徳 ・伊藤 サオリ ・町田 真由美 ・濱谷 時子		
記録者氏名	福澤 光徳	記録年月日	平成21年1月30日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>会社独自の基本理念、介護サービスの基本方針、品質方針に基づき、入居者様がその人らしい生活が過ごせるように支援、援助を心がけている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>朝礼時などに出勤職員で復唱をするなどをして、日々、会社の基本理念、品質方針を念頭におき、実践するように入居者様と関わっている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>グループホームの玄関入口などに掲示し、入居時にも本人、家族への説明を行っている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣住民の方に挨拶は行っているが、日常的な付き合いまでは行えていない。</p>	○	<p>今後は、散歩などで外に出た際などは、近隣住民の方に積極的に声をかけていきたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の行事を見学させて頂いたり、参加したりしている。</p>	○	<p>町内会や老人クラブなどへの行事にも積極的に参加出来るようにしたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>毎月、地域の現状を踏まえた内容の介護勉強会を行い、勉強会に向けての話し合いを行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	開設から1年未満ではあるが、職員1人1人が自己評価及び外部評価について理解するように取り組んでいる。	○	今後、外部評価を受け、評価を活かして改善点を改善出来るように取り組みたい。 評価結果についても職員に対して報告を行っていききたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現状では年2回しか行っていない。 入居者の様子についての報告を行い、家族、地域住民の方から出た、意見、質問の意味をしっかりと考えサービス向上に向けて取り組んでいる。 また、毎月の行事や活動の報告を行っている。	○	定期的に運営推進会議を行い、サービスの向上のために意見などを大切にしていきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市役所の介護保険課の方に相談、助言を頂き、サービスの向上に努めている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	会社内での勉強会では行っているが、活用出来る機会が出来ていない。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ユニット内においては、虐待などの行為は見られてはいない。 現時点では、学ぶ機会が得られていない。 高齢者虐待防止関連法については、まだまだ学ぶ機会が得られず、理解しているとは言えない。	○	今後は、研修会などに参加をして、他の職員にも虐待についての知識を広げていきたい。また、ユニットの勉強会においても学ぶ機会を持ちたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、十分な説明を行い、不安、疑問点を解消し理解、納得を得てから、契約をしている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議で入居者様からの意見、苦情の対応は行っているが、現時点では意見、苦情は出ていない。	○	入居者様の望んでいることを言葉や態度から適切に見極め、意見、不満、苦情を表せるように心がける必要がある。家族とも常に情報交換を行い、入居者様の思いを代弁できる環境作りをしなくてはならない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時に日々の様子を報告している。定期的に通信を発行しており、ユニット内での様子、金銭管理についての報告を書面にて郵送で家族に送付している。また、必要な時には電話にて入居者様の様子を伝えている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議を開催し、相談や苦情を外部者に伝える機会を設けてはいるが、現時点では苦情は出ていないため、実施出来ていない。ユニット内において、相談、苦情の窓口を設置し、窓口を明記した文章を玄関横に掲示している。	○	今後、苦情などがあった場合は速やかに対処行い、要因を探り、サービスに向上に活かしていきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的なユニット会議の実施を行ってはいる。また、緊急でのユニット会議を行い、職員の意見などを聞く機会を設け、意見や提案を反映させている。職員間での連絡ノートを活用し、反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為話し合いや勤務の調整に努めている。	ユニット内での外出時、行事ごとの時に職員の人数を確保している。入居者様の生活時間にあわせて早番、日勤、遅番のローテーションを組んでいる。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動、離職を極力少なくし、働きやすい環境作りを行っている。また、離職者に対しては、入居者様のダメージを少なくするために補充が速やかに出来るように心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
<p>19 ○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>必要に応じた新人職員研修、資料を作成しながらトレーニングを行っている。また、経験などを踏まえて、育成のプログラムを行っている。</p>	○	<p>外部への研修会の積極的な参加を行う予定。</p>
<p>20 ○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>見学者の受け入れを行っている。</p>	○	<p>地域の同業者との交流が不足しているため、今後は積極的に参加をしていきたい。</p>
<p>21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>定期的な面談の実施を行い、ユニット内での困っていることなどを聞き、ストレスの軽減に取り組んでいる。また、職員間ではよく話し合いを行っている。</p>	○	<p>運営者、管理者が職員の不安を取り除くように工夫、環境作り今後も継続して取り組んでいきたい。</p>
<p>22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員の努力、勤務状況を把握し、職員は向上心を持って働いているが、努力を行っているのに実績になっていない人もなかにはいる。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
<p>23 ○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>認知症であれば基本的に受け入れる方針である。事前に要介護認定の確認を行い、家族、本人との面談を行い十分に検討している。</p>		
<p>24 ○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>見学时、入居相談時、契約時に家族などがホームに対して求めていることを確認し、納得が得られるまで話し合いを行い同意を得ている。相談があれば、随時受け入れている。</p>		
<p>25 ○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談に応じた対応を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>本人が安心して納得したホームでの生活を送ってもらうために、往診医、家族、職員が一丸となり、ホームの雰囲気に徐々に馴染めるように工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>調理、掃除、洗濯など出来る事は職員と一緒にしている。</p>		
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>入居者様の家族の面会時には入居者様の近況を報告し、情報の交換に努めている。家族の方が何でも言える雰囲気を作る様に心がけている。</p>	○	<p>今後、家族交流会の実施を検討していった。</p>
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>家族が面会に来られた時には、本人の日常の様子、体調面などを話したりしている。電話なども対応している。月1回ユニット通信を送っている。</p>		
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>希望者には馴染みの美容室、理容室を利用出来るように支援している。親友、友人の方々が面会に来てくれる。在宅時の交流が途切れないように支援している。</p>		
<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>31 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>個別に話を聞いたり、皆で楽しく過ごす時間や気の合った者同士が過ごす場面作りをするなど、職員が調整役を務めるようにし、入居者様同士が助け合ったりして、気持ちの支え合いも見られている。</p>		
<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>32 サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>入院しサービスの利用が終了しても、お見舞いに行き顔を見せに行っていた。また、家族の方とお会いした時には情報を交換させていただいている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会社独自の基本情報でアセスメントを行い、一人一人の思いやグループホームでの暮らし方の希望、意向の把握を行っている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	会社独自の基本情報でアセスメントを行い、生活歴も含め生活環境の把握に努めている。日々の生活の中で本人の話される会話から、これまでの生活を把握するように努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人記録、水分摂取、排泄のチェック、食事量、心身の状態の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	3か月ごとに介護計画を見直している。家族からの意向があれば取り入れ、職員間で話し合い作成をしている。家族が承諾を得ている。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的には、3か月ごとに介護計画の見直しを行っているが、入居者様の状況、状態に応じた見直しを随時行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	排泄、食事量、血圧などの個人の状況、状態が分かるシート、介護記録を用意し個人の状態を記録している。職員は、それをもとに情報の共有化を図り、実践している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者様、家族がどんなことでも相談や意見を言える雰囲気を作るように、管理者、職員が心がけてユニットで出来る最大限の支援を行っている。住診、理美容などを活かした支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○ 地域資源との協働</p> <p>40 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>月1回のボランティアによる折り紙教室を利用しながら、支援を行っている。</p>	○	<p>今後は、民生委員、警察、消防、教育機関の協力が得られる体制作りを行っていきたい。</p>
<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>41 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>現状では行っていない。</p>	○	<p>検討する必要がある。</p>
<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>42 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>運営推進会議などで情報の交換は行っている。</p>		
<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>43 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。</p>	<p>定期受診時には必ず職員が同行するか、家族が同行し、日常の変化や気になる点などを報告し健康管理を行っている。</p>		
<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>44 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>専門医による診断、治療を受けている。症状が変化した場合でも気軽に医師に相談し、支援を行っている。</p>		
<p>○看護職との協働</p> <p>45 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護師の確保は出来ていないが、同一敷地内にある他のサービスから緊急時には来てもらい健康管理を行っている。</p>		
<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>46 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>情報交換や相談に努め、入院時の状態や退院に向けての連携が整っている。</p>		
<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>47 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化についてのあり方の方針については、指針を作成し連携が整っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>48 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>現在まで看取りを希望していた方はいたが、設備等の問題で実現できなかった。重度化した場合は、家族、かかりつけ医と相談しながら支援をしていた。</p>	○	<p>看取りについても検討していきたい。</p>
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居者様が施設へ移っても、そこで安心した生活が送れるように、ここでの生活の様子を情報交換している。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者様に合わせた声掛けを行い、状態、状況に合った声掛けを行っている。また、本人に対してのプライバシーを損ねないように配慮した声掛けを行っている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者様の意見を尊重し、ゆっくりとした対応で自分自身で決定できる支援をしている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者様優先を前提に支援はしているが、時には職員の都合で動いていることもあるので、入居者様一人一人のペースを守る事が出来るように努力する必要がある。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>身だしなみや、おしゃれにもその人らしさが出るように支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>61 ○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>冬期間は外出の機会が減ってはいるが、月1回は外出するようにしている。</p>		
<p>62 ○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>外出の際は職員が、行きたい所の希望を聞き、実現出来るように努めている。毎月、日帰り温泉に行っている。</p>		
<p>63 ○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話がかかって来ることはなく、手紙でのやりとりも無い。</p>		
<p>64 ○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>家族が訪問時、本人の居室や食堂、好きな所で談話してもらっている。また、月に1度家族に近況を記した手紙を送って関係を密にしている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
<p>65 ○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>理念に基づき身体拘束は行っていない。</p>		
<p>66 ○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>防犯のために外からは1日を通して入れない、ユニットのインターホンで鍵を開ける仕組みになっている。外出の察知については、1階のチャイムで知る事が出来る。家族にも同意済み。</p>		
<p>67 ○利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>プライバシーに関わることは、他の入居者様に見られたり、知られたりしないように注意を払っている。常に入居者様の所在、様子を把握しながら安全に配慮をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品については、入居者様の状況に応じて、物置やクローゼットにしまっている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故があった際には事故報告書を作成し、事故の原因、問題点、再発防止策の話し合いを行っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルは存在しているが、周知徹底はされていない。	○	急変時、事故発生時の対応が、確実に出来るようにしていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルは存在しており、災害時の避難経路、避難場所も決まっている。	○	定期的に避難訓練を行い、入居者様にも参加して頂き、スムーズに避難できるようにしていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	転倒の危険性やトラブルが発生しそうな可能性がある事を家族に伝え、抑制は行わず、入居者様が安心して生活できるように、また、怪我のないように職員が目配りしていることは伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者様の表情、状態を読み取り、入居者様個人に応じた血圧測定、体重の変化などを記録に、職員全体が体調の変化の早期の発見、対応に結びつけている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者様の個人ファイルに服薬リストが明記されており、職員全員が把握している。服薬に関しても職員による2重チェックを行い、薬の出し忘れ、誤薬などの防止を行っている。	○	職員一人一人が薬についての勉強を行い、適切な服薬支援が出来るようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個人の水分摂取量をチェックし、水分補給を積極的に促している。献立にも繊維質の多い食材を心がけて使用している。 また、一人一人の排便状況をチェックし、頓服で下剤を服用している入居者様もいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床時、就寝時、毎食後口腔内を清潔に保っている。また、義歯洗浄の声掛けなどを行っている。毎週日曜日にボリデントをしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の食事摂取量、水分量などを介護記録に記入している。 水分摂取量が少ない人には、促しを行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい、手洗いの徹底をしている。また、食中毒予防についての資料を職員に配布し、話し合いを行っている。感染症が発症した場合は、速やかな対応が出来るように医療機関と連携している。インフルエンザワクチンは入居者様全員が接種している。	○	外部からの感染症予防のために、玄関に消毒液を設置し、手の消毒をそてから中に入ってもらってはいるが、徹底されていないため、今後は、徹底していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、布巾などの除菌を行っており清潔、衛生を保持している。	○	買い物については、2日に1回のため、今後は、毎日買い物に行けるようにしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	春から夏にかけて、花壇で花などを育てている。	○	玄関の周りや建物の環境の整備に取り組む必要がある。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間や食堂に季節に応じた花や、壁画を飾っている。居住空間の表示は外すことの出来るものは外し、最小限の表示のみにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間、食堂の空間は確保出来ている。一人になりたい時には自室で自由に過ごすことが出来る。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具、ベッドを持ち込み家族の方と共に居室の用意をされている。本人が大切にしている絵画を貼ったり、家族の写真を飾ったりしている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	夏場は窓を開け換気をしている。冬場は掃除の時に窓を開け、換気を行っている。また、換気扇を常時回し乾燥の防止を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下などの要所に手すりを設置している。入浴時には、安全に入浴が出来るために簡易手すりを付けている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室には目印があり、見てわかるようになっているが、判断が難しい入居者様には、声掛けを行い、誘導をしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関の目の前が駐車場のため、建物の裏の花壇で花など作り、水撒きや草取りを行っている。	○	玄関前などにベンチを置き日光浴が出来るように有効に空間を使っていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない</p> <p>① 個人の意見を聞き入れ、日帰りで温泉などに行っている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない</p> <p>② 時間に余裕がある時には、書道をしたり、塗り絵をしたりしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 入居者様の話しを入居者様ペースに合わせて聞くように心がけている。入居者様中心の生活が送れるように心がけている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 自然な形で関わる事により、笑顔や感情を引き出すようにしている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 個人の体調、天候を確認しながら、ドライブ、外食などに行っている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 定期的な往診の利用、希望があれば受診を行っている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 個人の要望があれば聞き入れ実施している。また、不安な表情などがある時には居室にて話しをし、不安を取り除くようにしている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない</p> <p>① 家族との情報の交換を行っており、面会時に近況の報告を行っている。家族が何でも言えるような雰囲気作りができるよう心がけている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない</p> <p>③ 家族の方や、知人、友人の面会はあるが、地域の方の面会は減多にない。</p>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p> <p>③ 運営推進会議には参加し協力をしてきているが、地域とのつながりはまだ深くはない。</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>② 介護に対する疲れが見えている。</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>① 入居者様から満足の声をいただいている。</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>① 満足の声をいただいている。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
- ・職員の笑顔。
 - ・職員間の連携。
 - ・入居者様の尊厳と意思